



・発行・
京都障害者
スポーツ
振興会

題字 芝田 徳造

片山美代子副会長を偲ぶ

片山副会長の
急逝を悼む

京都障害者スポーツ振興会
顧問 芝田 徳造

去る12月19日 私達が最も敬愛する片山美代子副会長が突然急逝されました。先生を知るすべての人が驚き哀しみました。先生は京都の障害者スポーツにとつては神様のような人でした。

とりわけ卓球バレーについては日本の草分け的存在で、鳴滝養護学校の子供達と共にその普及に心血をそそがれ、いまや全国レベルにまで高められた方です。その功績の一部を以下に述べてみます。

そもそもこの卓球バレーは、大阪の茨城養護学校刀根山分校で土佐と言う先生が

ロフィー症の子供達のために開発されたものです。それが1974年(昭和49年)6月7日「第5回近畿筋ジストロフィー症児交換スポーツ交流大会」(豊中)から正式に実施されるようになったのです。(実はこの大会には現川面振興会長・水谷会長代行と私も見学に行っていたのです。)片山先生も鳴滝養護学校の生徒達と共に参加され、始めてこの競技と出会われ大きく感動されたのだと思います。

それから片山先生の大奮闘が始まりました。それ以後は卓球バレーの拠点は京都となり、その中心が片山先生だったのです。1981年の国際障害者年記念・第1回全国障害者総合スポーツ大会京都大会に片山先生の強い提起で「卓球バレーの強い提起で、6チーム45人が参加しました。そして1988年の第24回全国

片山 美代子 副会長 追悼号

られたと思います。私たちも大変残念です。そして先生の遺志を継承すること、先生のご冥福を心からお祈りします。

片山美代子副会長の 想い出

京都障害者スポーツ振興会
顧問 内山 茂生

「片山副会長が亡くなられました」との訃報に接したが、全く信じられませんでした。今頃は軽自動車を駆使して仕事やボランティア活動に駆け回っておられる姿ほかに浮かびません。先生との数々の想い出を語り、追悼の言葉と致します。

先生は、京都学芸大学数学科で学ばれ、部活動は体操部で活躍されました。昭和31年3月卒業後は市立中学校体育の先生に。私は10年後輩で同じ体育の道を歩んでいました。今から50年前に男勝りのテキパキした口調で体育の指導をされておられるのが、若い頃の片山先生で、この時が先生との初めての出会いでした。

10年程前に亡くなられたご主人も体操専門の優れた先生で、結婚後も二人して

多くのオリンピック選手の中、学時代の基礎を育てられた。吾が子同然のように世話をされ、試合会場にも度々激励に行くのだと話されていた。

それから20年後の昭和51年に鳴滝養護学校に体育の先生として転任。教育愛に燃えた先生は、障害者教育に専念された。その頃から先生を中心に諸先生方で卓球バレーを指導されて、今日の振興・発展を見るに至った。この取り組みの功績を讃え、後世に語り継がれる事を願い、昨年の秋に門川京都市長の提案もあつて、今日の発展に尽力された有志の皆様の篤志により校門前に「卓球バレー」発祥の地「記念碑が設置された。このことは、先生の言い尽くせない努力が実ったのである。

昭和63年の身障国体では、大会初の障害のある児童生徒のマスゲームや公開競技に卓球バレーを実施されたのも片山先生ら大勢の先生方の尽力によるものである。

平成元年、私は京都障害者スポーツ振興会副会長の先生と再会し、この道の先輩として種々教わりながら共に障害者スポーツ振興事業に携わったのである。

振興会創立35周年を記念し京都卓球バレー協会が創立され、初代会長として粉骨

碎身、組織の充実と競技の発展に尽力されたことは衆知のことです。

平成20年、念願の日本卓球バレー連盟が創立され会長に推され、その責任上、卓球バレーの盛んな九州各県や山口・和歌山に繁々と脚を運ばれ、組織運営・普及発展に伴う全国大会開催構想等に奮闘されておられた。

全京都車いすミニ駅伝競走大会の発案者でもある。重度の障害のある人にも駅伝を経験させたい一念から工夫考案された。私など考えも付かない競技方法で、考える、協力することを大切にしていた競走で皆に親しまれ、現在では高齢者チームの出場も多く盛大に開催されている。ここでも先生の緻密な計画性と実行力が伺える。

全国障害者スポーツ大会出場選手との関わりは、選手選考から強化練習、大会当日のコーチ、引率など選手の信頼は厚く、競技力の向上に成果を揚げている。

全国車いす駅伝競走大会京都チームの総務としてきめ細かい世話で、選手達の信頼は厚く安心して練習に励み、毎年優秀な成績を収めているのも先生の陰の力が大きい。

京都市をはじめ、障害者団体・スポーツ団体からの役員委嘱が多いのは先生のご人徳によるものであろう。

昨秋、先生の喜寿の祝膳に招いた時、「何時も独りだけ生活だから家で食べたことがない鍋料理が良い」と。ジンと来るものがあつたが、気さくに注文できる気性を表に出さない性格・豊かな潤いのある人間性などが、人に尊敬され好かれた先生だつたことに深く敬意を表しています。

喪主のご挨拶で「母は家族の誇りです」と申されたが、振興会の誇りでもあり、障害者スポーツ界の大きな損失である。本当に素晴らしい先生を突然に亡くし「先生！さようなら」と、涙することがしばしばである。

「片山美代子先生！長い間ご苦労様でした。お疲れになつたことでしょう。どうぞ安らかに眠り下さい。」ここに謹んで哀悼の意を表し、お悔やみを申し上げます。

合掌

片山美代子副会長の突然の死を悼む

京都障害者スポーツ振興会 会長代行 水谷裕

金子事務局長から電話で片山美代子副会長が突然ご逝去されたという訃報を受けた時、大変驚くと同時に、何がどうなつたのか解らず「何やそれ！」と、言つてしまいました。

この連絡を受けたついで日前、今年度の「全国車いす駅伝競走大会」の事務局全体会議で一緒に居ており、その折には、私が駐車しようとしていた後で「バックオーライ」と、声をかけていたなど、いつもながらの元気なお姿を見せておられ、このようないふこともない様子だつただけに、葬儀場へ行く途中において、まだ本当に信じられませんでした。しかし、葬儀場へついて祭壇の遺影を目の前にして「本当に亡くなつたんだ」と、現実を受け入れざる得ないことを知り入れました。昨年11月に創立40周年を迎え、いままですらに障害のある人々のスポーツ環境の整備を進めて行こうと突然のご逝去は、京都障害者スポーツ振興会にとつて、また、京都の障害のある人々の

スポーツ振興にとつて、とても大きな痛手です。

片山先生は、市立鳴滝養護学校（現鳴滝総合支援学校）が、京都障害者スポーツ振興会に加盟して以来、昭和51年から本会役員として、常にスタッフの先頭に立つて積極的に活動されてきました。

中でも卓球バレーは、筋力が極めて弱い筋ジストロフィー症のこども達に「勝敗のあるゲーム」がさせたいとの茨城養護学校刃根山分校の土佐教諭の強い願いと、こども達のスポーツへの熱い願望で考えられ、近畿筋ジストロフィー症児養護学校の交流スポーツ大会で行われていたのを片山先生が、振興会活動の中で重い障害のある人々がグループでスポーツの楽しさを味わえるベストのゲームとして紹介をされ、京都で広げるキツカケとなりました。昭和56年には「全京都身体障害者総合スポーツ大会・卓球大会」の一部に加えられ、さらに飛躍させたのが昭和63年秋の「第24回全国身体障害者スポーツ大会」の公開競技としての開催でした。

これらの卓球バレー競技の普及振興に絶大な指導力と行動力を発揮されるとともに、本振興会の活動をしながら、卓球バレー競技の組織

づくりにも取り組まれ、現在では京都のみならず全国的に広がりを見せるようになり、京都卓球バレー協会の初代会長として、同時に日本卓球バレー連盟の初代会長として精力的にこの道発展のために活動されていただけに残念でなりません。

今月、京都卓球バレー協会設立50周年の記念大会を計画されていただけに、突然のご逝去は、さぞかし無念のことであつたと思ひます。片山先生のご遺志を引き継いで、記念大会を立派に成功させたいと存じますので、安心してご永眠ください。

片山先生の障害のある人々に対する活動業績は、卓球バレーのみならず、車いす駅伝選手育成支援や障害者支援センターの運営等をはじめ、幾多の功績があることは周知のことでしょう。

片山副会長、長きにわたり大変ご苦労様でした。本当にありがとうございます。京都障害者スポーツ振興会スタッフ一同、心よりご冥福をお祈りいたします。

